

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター） 課題評価会議

1 評価委員

岩田智也	学識経験者・研究	山梨大学生命環境学部環境科学科 教授
三浦 久	流通・生産	山梨県漁業協同組合連合会 副会長
古菅一芳	流通・生産	山梨県養殖漁業協同組合 組合長

2 課題評価委員会

(1) 第1回 令和4年8月29日（月） 水産技術センター本所会議室

事前評価課題「富士の介等マス類養殖技術の効率化に関する研究」 主任研究員 加地奈々

研究の必要性	4.7
研究内容の新規性	3.7
研究目標、研究計画の妥当性	3.3
研究予算、研究体制の妥当性	3.7
総合評点	3.9

評価所見

「富士の介」に対するニーズは高まっており、その他マス類も含めマス類養殖業においては生産効率の向上が急務となっている。生産効率に影響する飼料の値上げや魚病の発生は経営を圧迫する要因にもなっており、これらの課題に対応する本研究の必要性は高い。

研究方法は既存の試験を踏襲するものであるが、先行研究の実績を踏まえた内容とされたい。マスノスケについては育種の事例がなく新規性は認められる。

研究目標については、生産量の増加と収益性向上に向けた具体的な数値が掲げられており評価できる。

過去の研究実績の十分であり、研究員の専門性、技術面においても妥当であると評価できる。多角的な視点で養殖技術の効率化に取り組むこととしており、養殖業者の収益性向上が期待できる研究である。